

【評価実施概要】

事業所番号	0170502512		
法人名	株式会社 アクティブケア		
事業所名	グループホーム みのり		
所在地	〒003-0829 札幌市白石区菊水元町9条1丁目3番1号 (電話) 011-871-2294		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年8月31日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】 (平成19年8月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱水費 20,000円 暖房費 10,000円 (11月~3月)		
敷金	有 (円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (8月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	8名	要介護 2	5名		
要介護 3	2名	要介護 4	2名		
要介護 5	1名	要支援 2			
年齢	平均 82.6 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 誠医会よつばクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設3年半を経過した当ホームは、介護福祉事業を展開している法人の第1番目のグループホームである。併設の有料老人ホームと広い中庭を共有し、バリアフリー構造のゆったりとした明るく清潔なホームである。日中帯は出入りが自由で開放的であり、居間にはお茶が常備され、家庭の延長線上の暮らしが感じられるホームである。24時間の医療連携体制が充実しており、利用者のニーズに合わせた医療支援を行なっている。個別性の高いケアサービスの提供にセンター方式を活用し、利用者のその時々々の希望や意欲を大切にしたい支援を心がけている。代表者、管理者、職員の良好な協働の下、真摯により質の高いケアサービスの提供を目指しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>昨年度は職員の交替などもあり、自己評価のみの取り組みに終わっている。一昨年の評価結果で挙げられた改善項目は、改善されておりその努力が伺える。今後は定期的、継続的な外部評価に取り組み、質の向上に活かす取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価は職員がそれぞれ分担し、自らのケアサービスについて見直しを行ない、全体として取りまとめて作成している。更に評価の意義についてホーム全体で話し合い、具体的な部分での評価またその後の改善に向けて、計画的に取り組んでいくことを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>第1回目の運営推進会議では、ホームの体制の説明、ホームのあり方をテーマに開催している。メンバーの日程調整を行ない、現在第2回目の開催の準備に取り組んでいる。今後は更にメンバーに地域密着型グループホームの機能と、役割に対して理解を深めてもらえる働きかけを期待したい。自己及び外部評価についても報告しながら活発な意見交換を促して、その意見を取り入れホームの運営に活かす取り組みを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>「意見箱」が設置され、内部、外部の苦情窓口の明示、案内を行なっている。ホームとして、家族の思いや安心感を大切に捉えており、意見や要望などを言いやすい雰囲気作りに努めている。また、管理者も気さくに声を掛け、出された意見などはミーティングで話し合い、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>町内会に加入し、ゴミステーションの清掃、花壇作りと地域住民と共に活動している。また老人クラブの寄席鑑賞や地域の幼稚園の運動会に招待されるなど、積極的に地域に出掛けての交流に努めている。今後は近隣の人達がホームの中に気軽に遊びに来てくれる関わり、手芸や絵手紙など共に楽しむボランティアの導入など地域住民との双方向の関係作りの取り組みを期待したい。</p>
	<p>重点項目④</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として、「互いに尊重し助け合いながら、家庭的で楽しい生活環境」を掲げ、その実現に向け日々取り組んでいる。開設当初から、地域住民との交流を大切に捉えたケアサービスの提供に努めているが、改めて理念には盛り込んではいない。	○	地域密着型サービスの本質を理解し取り組んでいるが、運営の拠りどころとなる理念についてホーム全体で話し合い、具体的な言葉として盛り込みより地域住民との交流を重視したサービスの提供を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時にはホームの理念、経営理念を唱和している。管理者はショートミーティングやユニット、全体会議において、理念を意識しながら日常ケアに繋げて話をしており、職員間での理念の共有は図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ゴミステーションの清掃、花壇作りと地域住民と共に活動している。また老人クラブの寄席鑑賞、文化祭参加、地域幼稚園の運動会に招待されるなど積極的に地域に出掛けての交流に努めている。	○	更に今後の取り組みとして、地域住民がホームの中に気軽に遊びに来てくれる関わり、手芸や絵手紙などを共に楽しむボランティアの導入など地域住民との双方向の関係作りの取り組みを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度は職員の交替もあり、自己評価のみの取り組みに終わっている。今回の外部評価に関しては、職員がそれぞれ分担し自らのケアサービスについて見直しを行ない、全体として取りまとめて作成している。	○	今後は全職員間で、外部評価の意義や活用方法を理解しより具体的な自己評価に取り組み、計画的かつ継続的な外部評価の実施を期待したい。また評価結果を踏まえて、事業所全体で共有し目標を立てた計画的な取り組みを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年、グループホームの体制の説明、ホームのあり方をテーマに第1回目の運営推進会議を開催した。第2回目として、9月の第2週目の実施に向け取り組んでいる。	○	日程調整などの難しさはあるが、定期的で開催してメンバー一人ひとりがグループホームの機能と役割について理解を深めてもらう働きかけを期待したい。自己及び外部評価についてもテーマに盛り込み、活発な意見交換を促して参加メンバーの意見、要望を受け入れ、ホーム運営に活かす取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の管理者会議に出席しており、また区の管理者会議では副代表を務めている。具体的スキルアップのための情報交換など、グループホームの質の向上に向けて共に話し合いを行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真を掲載した「みのり通信」を発行し、金銭出納報告と共に送付している。家族の訪問時の口頭による報告のほか、状態変化や受診時などには手紙、電話、メールなどの手段を用いての報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口の記載、苦情箱の設置がなされている。家族などからの苦情はないが、職員は訪問した家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている。また日常的に関わる職員とは別な立場の管理者が、気さくに声を掛け出された意見などはミーティングで話し合い、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から3年半を経過し、職員の交替に際しては利用者の状態安定を見極め、2～3ヶ月の引継ぎ時間を設け利用者へのダメージを最小に留める配慮を行なっている。職員交替がホーム内の活性化や程よい緊張感など、プラスに転じよう努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識し、法人独自の研修会が数多く開催されている。また、外部の研修も周知されており、職員の希望、段階に応じた研修受講の機会を積極的に提供している。後日、研修報告書を提出しショートミーティング時に発表しており、職員間での共有がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の系列グループホームの職員と、一緒に学習する機会がある。近隣のホームとも、公園や招待先の幼稚園など外出時での交流が行なわれており、相互訪問も話し合われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用開始には約1ヶ月の時間をかけ、家族の協力を得ながら入所、入院先の情報収集を行なっている。本人や家族にホームの見学に来てもらったり、管理者が自宅や入所先を訪問し、お話や散歩をしながら利用に向けて関係作りに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりの利用者の思いや希望の実現に向け、できるだけサポートを心がけている。また、年長者である利用者から和食の作り方、植物の手入れの仕方、日常の立ち振る舞いなど教わる事も多く、共に過ごし学び支え助け合う関係が作られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始時点での利用者、家族からの聞き取りのほか、日々の暮らしの中での会話や行動などからの本人の思い、希望の把握に努めている。職員の担当制を取り入れ、センター方式の活用により、全職員間で共有されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに合わせて個別のケア記録の様式を工夫し、利用者の状態に即した把握を行なっている。家族、利用者からの聞き取り、担当職員からのセンター方式でのアセスメントに加え、介護支援専門員、医療関係者からの意見などを検討し、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月の定期見直し期間を設定しているが、毎日行なわれるショートミーティングにより利用者の状態変化に即した見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整っており、利用者の負担になる入院治療をできるだけ避け、訪問診療や訪問リハビリを活用しホーム内での治療を可能にしている。また、利用者の希望する専門外来受診には法人所有の車椅子対応車などで送迎を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の訪問診療は月2回であるが、ほぼ毎週のように訪問がある。その前日には、看護師の訪問できめ細かな情報伝達が行なわれている。緊急時には、24時間対応で相談や指示が得られる。利用者の希望する10数箇所の協力病院とも良好な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームでの重度化、見取りに関する対応の指針を整備し、入居時に説明し同意を得ている。家族には、利用者の状態変化をきめ細かく報告し、段階に応じて家族や医療機関と相談して共有化が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会カード及び、個人記録などのプライバシー保護の徹底が図られている。また、職員は利用者一人ひとりの性格や生活歴を理解し、プライドを損ねることのないよう言葉掛けや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活リズムはあるものの、その時々状態を見極め食事時間や入浴、散歩なども本人の意向やペースでの暮しができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理やおやつ作りは本人の得意分野での手伝いを一緒に行ない、自らが動けるよう言葉かけを工夫している。職員の利用者に対する食事支援はさりげなく、共に楽しい食事ができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体の清潔保持のための入浴の目安は立ててあるが、ゆっくりと入浴される人、夜間の入浴を希望する人など、それぞれの希望やタイミングを工夫し、希望に合わせての職員シフトの柔軟な変更も可能である。浴槽は全介助の利用者に対して左右からのサポートが可能な作りになっており、安心感ある入浴支援が行なわれている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や状況、好みを念頭に置き、自らの動きを大切にしたい見守り、支援に取り組んでいる。植物や畑の手入れ、牛乳瓶の片付け、おしぼり作りなどの役割、カラオケや、押し花作り、散歩での野草摘みと利用者の出来ること、楽しみごとを実現できるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関は開放されており、広い中庭のベンチに座り自由に日光浴を楽しんだり散歩に出掛けたりできる。車での希望の品や旬の食材の買い物や、個別に希望する外食など利用者本人がその時思い立った意欲や希望をできるだけ大切にしたい支援を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19時30～6時30分くらいまでは防犯上の理由で施錠しているが、日中帯は玄関は開放されている。外出傾向の人には、行動の把握、遠目からの見守り、近隣からのサポートなどで対応している。各ユニット出入り口には、ベルが取り付けられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の有料老人ホームとの連携で、年2回消防署の協力を得て午前と夕方、またその状況を変えて消火、避難訓練を実施している。	○	地域住民にホームの災害対策に理解を求め、今後さらに運営推進会議で協力を呼びかけたり、近隣住民の参加を得ての訓練実施の取組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を考慮し、必要と思われる利用者について1日の食事量と水分摂取量を把握し、またその他の利用者についても概ね把握している。栄養バランスを考えた献立は職員が交代で作成し、併設施設の栄養士に確認してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはゆったりとしていて明るく開放的である。家庭的な雰囲気の中、清潔感が保たれている。畳スペースや広い廊下には大きなソファが設置され、また自由にお茶が飲めるようポットが常備されていて、居心地良く過ごせる場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのタンスや仏壇、テレビや装飾品、好みの寝具などが持ち込まれていて、それぞれの居室が個性的な空間になっている。		

※  は、重点項目。